



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

「学び」のペースは、一人一人違うはず

先日の「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」では、「学習についての思い」をテーマとして保護者の方が感じること、思うことを話し合いました。子どもの日頃の学習する姿をどのように感じているか、また、自分自身の中学校時代の学習はどうであったかなどをふりかえりながら、「学び」について様々な角度から考えてみました。

テスト問題の意味がわからない？

そこで、校長の子どものころの話をさせてもらいました。私は、小学校に入学して平仮名を習った時に、「め」「ぬ」「ね」がなかなか区別できませんでした。なぜそのようなことを覚えているかというと、「め」「ぬ」「ね」をうまく書くことができず、ノートに何回も書かされていたのです。その時の場面・風景が今でも浮かんでくることがあります。特に「ぬ」と「ね」がどうしても書けず、なんとなくさびしい思いがしたことを覚えています。

また、5年生くらいまで、テスト問題の意味がわかっていなかったように思います。例えば、国語のテストで「作者の意図を答えよ」というような問題がよくあります。私は、「それは作者に聞かなければわからない」とずっと思っていました。ところが、ある時に、ふと気が付いたのです。それは、先生は授業中に、「この文では、作者はこういう思いなのですよ」と教えてくれていることです。なるほど、それを答えたら、正解なのだと。子どもは、そのようなことに少しずつ気が付きながら、個々のペースで成長していくものです。

「学び」の土台づくりが大事です

しかし、大人の眼から見ると、「もう少し集中したら」「反復練習すれば」など、テストに向けての学習を意識して、そのための学習方法をイメージします。どの子も同様に机に向かうものだと思います。でも、学習をするためには、まず「やる気」が必要です。他に根気や負けん気ももって学習しなければなりません。何よりも自分が納得して臨める条件が必要です。体と心のコンディションが大事になってきます。人によって成長のペースも違います。そこで、この「ほかほか通信」第一号の言葉を思い出してください。「やる気があるからできる」のではなく「できるからやる気が出る」という言葉です。「できる」という感触は、自分だけでは気付けません。周りの人たちからも「できてるね」と認められて初めて納得がいく感覚です。「学び」の土台となるのは、やはり心と体の安定、安心感です。洛風の生徒たちは、その土台づくりをがんばっています。

あさって、11月1日は日曜参観です

「学びの原点」を追究する～洛友中学校からのメッセージ～

先にお知らせしていますように、あさっては日曜参観です。午後からのヒューマン・タイムでは、前洛友中学校校長、岡田敏之先生（京都教育大学教授）をお招きして、「学びの原点」について皆様とともに考えていきたいと思います。ぜひ、お越しください。



ホームページでも紹介しています生徒の折り紙作品です。折り紙に向かっている時の集中力はすごいです。ここまでできるようになるには、相当な学習がいらしますね。